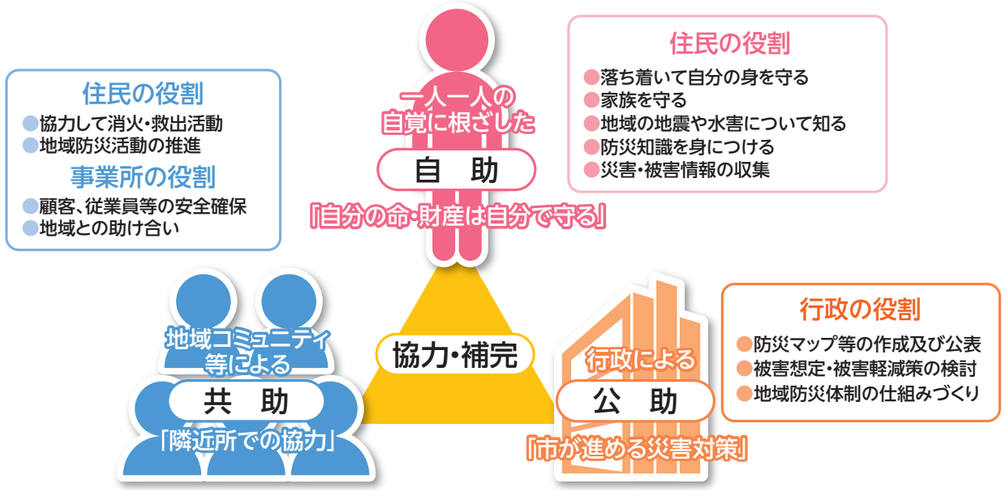
防災・減災の基本

災害による被害を少しでも軽減するために、行政が行う防災対策である「公助」とともに、自分の命は自分で守る「自助」、地域の安全は地域で守る「共助」が防災・減災の基本になります。

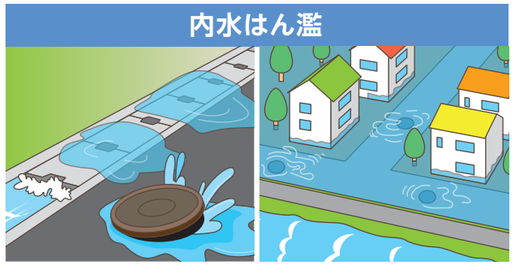


大雨によって想定される災害

大雨が降り続くと水害や土砂災害が発生します。水害や土砂災害にも種類があるので、理解しておきましょう。あなたの家の周りでどの災害が発生するのか、ハザードマップで確認しましょう。

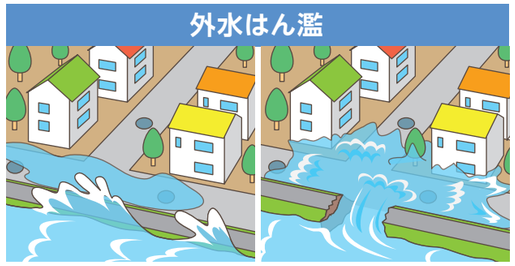
内水はん濫と外水はん濫

内水はん濫



大雨により、下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれ出す現象

外水はん濫



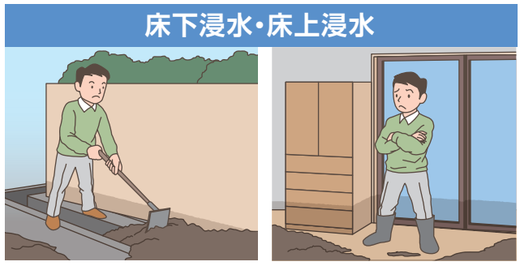
大雨によって河川の水量が増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊する等により水が流れ出す現象

大雨が降り続くと・・・

道路の冠水

エンジンが停止したり、ドアが開かない等、車内から出られないことがあります。

床下浸水・床上浸水



流れこんでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊

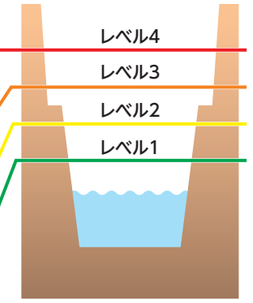
河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

水位観測所における基準水位

河川のはん濫の危険性は、河川ごとに異なります。桜井市の主要河川の水位観測所において、はん濫の目安となる水位や、発生のおそれのある水位等を定めています。

上流で大雨が降った時には、急激に水位が上昇することがあります。自分のいる場所だけでなく、河川の上流で降る雨にも注意しましょう。

河川名	大和川	大和川	寺川	寺川	米川	危険度レベルの概要
観測所名	黒崎	豊田	磐余	十市	新賀	
はん濫危険水位	1.70m	3.10m	1.30m	2.30m	2.80m	河川がはん濫するおそれのある水位
避難判断水位	1.60m	2.40m	0.80m	1.80m	2.40m	避難情報発表の目安となる水位
はん濫注意水位	1.60m	2.40m	0.80m	1.80m	2.40m	河川のはん濫を注意する水位
水防団待機水位	1.10m	2.20m	0.50m	1.10m	1.60m	水防団が準備する目安になる水位



1時間の雨量と想定される被害

集中豪雨は、短期間のうちに狭い地域に集中して降る雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、発生の予測は難しく、急激に状況が変わるため、少しでも異常や危険を感じたら、すぐに避難するようにしましょう。

1時間雨量(mm)	10～20mm やや強い雨	20～30mm 強い雨	30～50mm 激しい雨	50～80mm 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
状況	長く続く時は注意が必要	側溝や下水道等があふれ、小規模のがけ崩れが起こりやすい	山崩れや、がけ崩れが起きやすくなる	マンホールから水が噴出したり、土石流が起こりやすい	大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

■**気象情報**　気象情報は、気象庁から報道機関等を通じて皆さんに伝えられる最も身近な避難に役立つ情報です。大雨時には、テレビやラジオに注意するとともに、より詳しい情報を知りたい場合は、インターネットを活用した情報収集も心がけましょう。

注意報・警報発表基準		住民の皆さんの行動
大雨・洪水注意報	災害が起こるおそれがある場合	●テレビ・ラジオから最新の気象情報を入手 ●窓や雨戸等家の外の点検 ●避難所や非常用持出品の確認
大雨・洪水警報	重大な災害が起こるおそれがある場合	●避難の準備をする ●危険な場所に近づかない ●日頃と異なったことがあれば、市役所等に通報
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	●避難中の場合、直ちに避難を完了 ●まだ避難していない人は直ちに避難を行う ●大雨や暴風のために屋外を移動すると命に危険が及ぶ場合は屋内安全確保

特別警報について

気象庁は、平成25年8月30日より「特別警報」の運用を開始しました。警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。